

農業用水情報



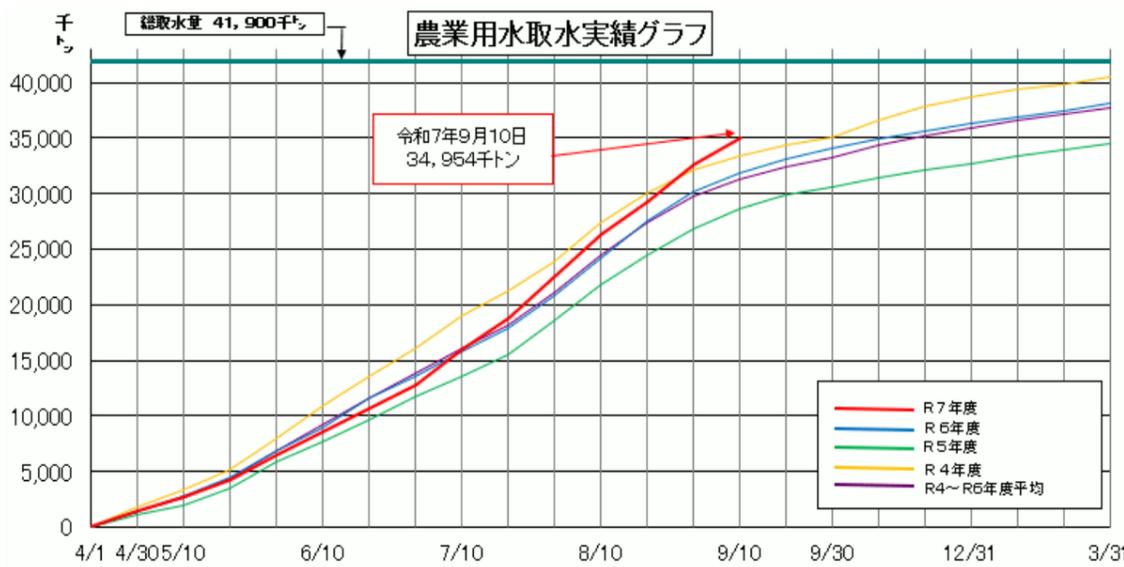
岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン (貯水率 100%)

農業用水取水量 3,495万トン (取水率 83.4%) (ともに9月10日現在)

暑い日が続く中、少しずつ秋の気配を感じるようになってきました。秋は、涼しい風や紅葉、旬の食べ物が多いなど、五感を感じられる季節です。ちなみに俳句や詩に使われる「秋の季語」には、初秋・仲秋・晩秋とそれぞれの時期に合ったものがあります。たとえば、初秋の季語では「秋風」があります。これは暑さが和らいで吹く涼しい風を表し、心地よさを感じるこの季節の始まりを意味します。仲秋には、「月見」や「紅葉」があり、美しい景色や自然に親しむ風習を思い出させてくれます。晩秋になると、「落葉」や「霜」という季語が登場し、冬の訪れを感じさせる季節の終わりを示します。

季語を意識すると、ただ日々を過ごすだけでなく、季節の変化に気づき、楽しむ心が生まれます。普段の会話やメールに「秋の風が心地よいですね」と一言加えるだけで、季節感が伝わり、コミュニケーションが少し豊かになるかもしれませんね。このような小さな季節の変化を大切に感じながら、日々の業務に取り組んでいきたいです。

さて、水源地である岩屋ダムの利水貯水量は、9月10日現在で6,190万トンと満水状態を保っています。今年度においても、これまで水源地周辺では定期的な降雨があったため、渇水の心配をすること無く安定的に水を供給することができましたが、今後も引き続き降雨状況やダムの貯水状況に注視していくことが必要です。



また、9月10日現在の農業用水取水量は3,495万トン(取水率83.4%)で、過去2ケ年の平均取水量より374万トン程度多くなっています。

今夏は、連日の猛暑日に加え、降水量が少なく、取水量が大幅に増加しています。年間総取水量4,190万トンを超える勢いとなっており、喫緊の課題として給水栓の調整等節水に心がけていただき、合わせて地区内水源(河川、ため池等)の最優先活用等、引き続き受益者の皆様のご協力をお願いいたします。

水資源機構本社・地元選出国會議員等に要望書を提出しました！

8月28日(木)、藤井理事長以下各単区の理事長が出席し、独立行政法人水資源機構に対して「木曾川用水施設の機能保全に関する要望書」を提出しました。機構側から出席頂いた理事長や理事、幹部職員の皆さんに対して、現在の木曾川右岸施設の状況等を説明し、その対応等について要望するとともに意見交換を行いました。

翌29日(金)には、地元選出国會議員等に同様の要望書を手交してきました。今後も引き続き、要望活動を重ねていきたいと思ひます。



職員採用試験のご案内

木曾川右岸用水土地改良区連合では、令和8年4月1日採用の事務職員を募集します。

◎ 申込書受付期間 : 令和7年9月16日(火) ~ 令和7年10月3日(金)

◎ 試験日(一次試験) : 令和7年10月16日(木) (別途二次試験あり)

※ 詳しくは、当連合ホームページをご覧ください。または、事務局までお問い合わせください。

